

Now, in 1997, we are nearing the 21st century. The era known as the information age has been with us for quite some time. Every day a lot of news from all parts of the world is constantly transmitted to us. Also, with the amazing progress of computers and the Internet, the supply of information is limitless.

But from this flow of information it is difficult to choose material relevant to one's self.

Of the community, and by the community, however, this exchange of information will provide the vitality for growth and development.

“ Since spreading and receiving information are one, receiving is just as important. ”

In this gradually growing information society, what should we send and what should we receive ?

# 発信

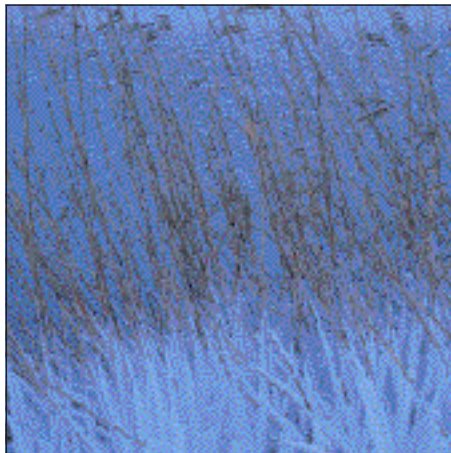
Spreading  
Information

21世紀も間近な、いま1997年。「情報化の時代」と言われてかなり久しくなります。テレビでは毎日、地球上の各地で起こっている数々のニュースが、ひっきりなしに伝えられています。また、発達めざましいコンピュータでは、インターネットを通じて全世界の情報を無限に提供しています。でも、あふれる情報の中から自分に必要で、正しい情報を取り出すことはそうたやすいことではありません。

このような情報過多<sup>かた</sup>の世の中で、私たちの地域の情報はいったいどうなっているのでしょうか。「以前なら隣近所のおつきあいから、ごく自然に得られていた身近な情報が、全く入らなくなっている」こんな声を編集委員会で耳にしました。いま不足しているのは、このような地域に密着した情報ではないでしょうか。「地域の、地域による、地域のための情報交換から、地域づくりの活力が芽吹く」そんな気がします。

「発信と受信は表裏一体のものです。受信も大切にしなければなりません」

ますます巨大化する情報社会で、私たちは何を発信し、何を受信すべきなのでしょうか？



凍結するヨシ（大中）